

令和5年度 東北公益文科大学大学院 公益学研究科 修士号取得論文の概要報告

東北公益文科大学大学院 研究科運営委員会

東北公益文科大学大学院は、公益に関する理論及び実践応用の教授・研究を行い、高い専門性を要する職業等に必要の高度の知識・能力を持った人材、及び公益研究の発展を担う研究者を養成し、公益と経済が調和した国際社会の発展と学術文化の向上に貢献することを目的とし、開設から20年を迎えた。令和5年度末までに167名の公益学修士と5名の公益学博士を輩出している。

令和5年度 東北公益文科大学大学院 公益学研究科 修士号（公益学）取得者である、田雨冉、横山夢月の2名の修士論文日本語要旨と、本学大学院としての審査結果の概要を報告する。尚、審査結果報告の概要については、「修士論文審査・最終試験結果報告書」の内、合格とする「判定理由」の項目のみを掲載する。

ナシ族トンパ文字自動解析のためのデータセット構築

田 雨冉

本研究では、雲南省の少数民族であるナシ族が主に宗教文書を記録するために使用している独特の象形文字である「トンパ文字」を対象としている。トンパ文字は中国国内外の多くの研究者によって研究されてきたが、トンパ文字で書かれた文書の分析に現代の情報技術や機械学習を適用する研究は少ない。その理由のひとつは、そのような技術開発の基盤となる公開されている注釈付与データが不足していることである。筆者は、トンパ文字写本の画像に注釈を付与したデータセットを構築し、オープンデータとして公開することによりこの状況を変えることを目的とする。現在、提案データセットには103ページの写本に及ぶ合計7,000字近くの文字に対するアノテーションが含まれており、1,103字以上の異なる文字が出現している。画像における文字を検出し分類するためのディープラーニングモデルの学習に用いることにより、提案データセットがトンパ文字で書かれたテキストの自動分析ツールの開発に利用可能であることを実験的に検証した。さらに、トンパ文字の辞書2冊に記録された3,735の文字の視覚的特徴と構成要素の分析を行い、その結果を用いてキーワードに基づくラベルフィルタリングを適用することにより、アノテーション作業の効率を改善することができた。

【田雨冉】「修士論文審査・最終試験結果報告書（抜粋）判定理由」

審査員 主査 ノヴァコフスキ カロル

審査員 副査 広瀬 雄二

審査員 副査 玉井 雅隆

機械学習には、対象の問題に関する知識を持つ人間によってアノテーションを付けられた構造化データが欠かせない。このデータを作成する作業は多くの労力および専門知識を要するため、公開されている既存のデータを利用する研究が多い。したがって、注釈付与データ自体の開発を目的とする研究取り組みは大きな重要性を持っている。本研究では、ナシ族トンパ文字自動解析のためのデータセットを設計し、アノテーション作業を行い、機械学習による文字認識システムの開発への有用性を実験的に検証している。また、関連研究と異なって、開発されたデータセットはオープンデータとして公開され、今後の研究の発展に貢献すると期待される。以上のことから本研究の学術的意義が認められる。

本研究で利用されているデータ形式等になじみのない、他の分野の研究者を対象とした説明が不十分であるため、研究成果の再利用性の面で課題が残っているが、修士論文としては十分な水準にある。また、質疑応答においても、概ね妥当な回答が得られた。なお、審査員より指摘を受けた事項については修正が行われ、その内容を確認した。よって、合格と判定した。

地方における不登校児童・生徒の居場所に関する研究
—山形県で展開されているこどもの居場所を対象とした
インタビュー調査を中心に—

横山 夢月

日本では、不登校児童・生徒数が10年連続で増加し、その半数以上が90日以上
の長期欠席であることが社会的課題となっている。学校や社会に対する不安
を抱えるこどもに対して、政府や自治体、社会全体によるこども支援、こども
の居場所づくりなどの新たな取り組みが期待されている。2023年には内閣府に
よりこどもの居場所に関する調査が実施され、広義の「こどもの居場所」の概
念整理は行われているものの、身近な地域において各々のニーズに応じた居場
所を持てるようになるための分析、地方における居場所の拡大に向けた方策の
検討が期待されている。本研究は、地方における不登校児童・生徒の視点に基
づくこどもの居場所に必要な機能や要素を明らかにすることを目的として、先
行研究をもとに仮説を立て、山形県のこどもの居場所の利用者と運営者を対象
としたインタビュー調査によりその検証と分析を行った。

地方における不登校児童・生徒が通う居場所に求められる機能としては、こ
どもが自分らしく過ごすことができるような環境の整備や、他者との交流の機
会、不登校児童・生徒が抱える悩みや不安に寄り添った支援が挙げられ、調査
対象の居場所ではそれらが実施されていることが明らかになった。また、機能
を支える構成要素として、不登校・児童への支援としては、不登校児童・生徒
が抱える不安を理解したうえで、こどもに寄り添うような親身な関わりや相談
対応、こどもの選択を一緒にサポートするような力がスタッフに求められてい
ることが明らかになった。一方で、課題として、人材不足、交通手段が少ない、
地域の理解に差があるという3つの事項を抽出した。地方において、こどもが
求めている居場所を作るためには、大人の理解と、居場所のスタッフの存在や
交通アクセスの良さも含めた「居場所」そのものの確保が求められていること
が明らかになった。

【横山夢月】「修士論文審査・最終試験結果報告書（抜粋）判定理由」

審査員 主査 武田 真理子

審査員 副査 澤邊 みさ子

審査員 副査 小関 久恵

本研究では、山形県を含む地方では実践事例が少ないこどもの居場所について、先行研究に基づく理論的な分析の上に、居場所の運営者及び利用者を対象としたインタビュー調査を通じた実証的な分析を行った点が評価できる。さらに、ソーシャルワーク研究としては、論文全体を通じ、不登校を経験しているこどものニーズを常に基点に据えて調査及び分析が行われていることも評価できる。

審査の結果、未だ調査が少ない地方におけるこどもの居場所づくりの研究に新しい貢献を果たすことができたことが確認された。また、不登校児童・生徒への理解に基づくこどもの居場所の機能及び構成要素の整理が進んだことにより、居場所運営者等が不登校児童・生徒に寄り添った対応や支援の質を向上させるために本研究成果が活用されることが期待される。

尚、審査において、調査設計の説明部分の補足、軽微な誤字等の修正が必要であることが確認され、指示通りに修正が行われた。

以上のことから、主査及び副査は、①これまでの研究経過が十分に踏まえられており、②問題の所在を明らかにし、③問題の解明の手順及び方法が適切であり、④結論が明らかにされていると判断し、⑤総合的観点から修士研究にふさわしい水準にあることから合格と判定した。